

5班 障害のある人が分け隔てられない共生社会の実現

	課題	だれが	なにをする	備考
声かけサポーター、ヘルプマークの周知等				
	障害者の就労	県（国）	その子にあった個々の支援をする 学校等で、助け合いの教育をする。	コーディネーターの育成 ヘルプマーク等の周知、学校と連携。
	障害者への支援、実際に障害者の方を見かけても、何をしたら助けられるのか分からない。知識がないから。出来る範囲で、と言っても。。。。	県	声かけサポーターの取組は良いと思いますが、もっと気軽にいつでも、楽しく、知識を身に付けることができれば良いのでは。	たとえば、一問一答形式のゲーム。クイズとかカルタとか。静岡市の地場産品とかを紹介するカルタが出て話題になって職場（図書館）にも届きましたが、ああいうゲーム形式で子供や保護者、地域の人たちに広く知識を伝えることが出来るかも。
	ヘルプマークについて	県	色やデザインを細分化する	市民が何をすれば良いのかが明確になっておらず、手助けが難しい
	ヘルプマークについて	県	独自のヘルプマークを作る	デザインを細分化するため
	ヘルプマークについて	東京都	著作権を放棄する	デザインを細分化するため
	ヘルプマークの啓発を再度強化	県	災害時にも利用できるということを伝える。	
	合理的配慮の理解が進めるために何が出来るか→ヘルプマーク、ヘルプカードの周知促進するためには	企業・NPO	当事者がヘルプマークの紹介を企業などに行う	当事者からの方が必要性を理解しやすい
	合理的配慮の理解が進めるために何が出来るか→ヘルプマーク、ヘルプカードの周知促進するためには	県	ヘルプマークを市役所以外にも設置することを検討する	医療機関などでも手に入れられるようにしてはどうか
	合理的配慮の理解が進めるために何が出来るか→声かけサポーターの周知促進するためには	県	声かけサポーターについて医師会などと連携し推奨を図る	医療従事者でも知らない人は多くいると思うため
	合理的配慮の理解が進めるために何が出来るか→声かけサポーターの周知促進するためには	私	声かけサポーター養成講座に参加する	多様な障害についての理解を
	若い世代の障害者教育	県	高校以降の人達の障害者教育。 学校の授業に絡めた周知。特に声かけサポーター、ヘルプマークにかんする理解。	声かけサポーターなどのボランティアの参加率をあげることで、若い人達が障害者に対する理解を深め、さらにその人たちが周りにもその影響を与えてくれると思うから。
	障害者のことを周りが理解する	県	ヘルプマーク・ヘルプカードの周知 役割の周知	障害者の方々が助けを求めているもこれらの存在を知らなければ助けられないから。
就労支援				

5班 障害のある人が分け隔てられない共生社会の実現

課題	だれが	なにをする	備考
—	県	p24、ふじのくに福産品、大いに宣伝し、推進販売してください	この事ぐらいなら出来るでしょう。
—	県	将来的自立に向けた支援、発達障害の人に対して。	雇用の充実、教育の差別を払う
—	私	購入させていただきます。オルグもします。	
就業可能な方の就業場所の確保	NPO（事業者）	就業支援、就業場所の提供	ノウハウがあるから利益追求がない方が向いている
就業可能な方の就業場所の確保	県	事業支援	健常者と同じ生産性を期待するのは困難なことも多い。よって福祉の役割である
就業可能な方の就業場所の確保	個人	サービスの利用、商品の購入	経済的なサポートにより事業継続を支援 福産品の周知により売り上げを向上。
障害者の居場所を確保する	企業	障害者雇用の促進	新しい生産方法
障害者の居場所を確保する	就労支援センター	個人のスキルup	
障害者の就労	県	就労後の支援（工賃や精神的な支え）	就労者の中で優劣がついてしまうことが問題になると上がった。働きやすい環境づくりは全ての人に提供されるべきである。B型はA型よりも単価を上げた方がいいと感じた。
障害者の就労	市、労基署、職安とか	事業者、障害者への研修会	その仕事が障害者にとって意欲、意味があるか、労働環境は大丈夫か
障害者の就労	事業者	障害者にとって有意義のある仕事を与える	マニュアル。健常者とペアにさせてミスをしないよう事業全体で取組む
障害者の就労	学校との連携	障害者就労者が学校で講義をする。	他にも、県民に対するPR。 福産品手なに？どこで購入できるか知る。
障害当事者に寄り添った施策	県	現場を訪問する	見習いとして現場に入る
障害当事者に寄り添った施策	市町	同様に現場を訪問する	
障害当事者に寄り添った施策	民間	障害を持った人が得意な仕事を割り当てる	PRが就労支援になる。 やりがいのある仕事をさせる。
制度的バリアーの撤去と構造変更	各事業所	障害者雇用受入、事業者への情報伝達	
発達障害者の就労環境の多様化	県	現場主義で雇用者と話をする。障害者一人一人に目を向ける	障害者は有意義と思える労働環境を整備
発達障害者の就労環境の多様化	発達障害者	自分の“したい事”を見つける&伝える	
福祉的就労の工賃水準向上	県	福産品を全国ネットでPR、又は返礼品としてかつ用	優先調査としてできるだけ事業所とともにそうことが制作している人たちが元気になる

5班 障害のある人が分け隔てられない共生社会の実現

課題	だれが	なにをする	備考
福祉的就労の工賃水準向上	市町	地元の事業所の販売をやはりPRしていく	事業所によっては利用できないものもあるが、自分たちの仕事に目を向けてもらうことが生きがい
合理的配慮の適用→どうしたら障害の理解を促進できるか	企業・NPO	授産所で作った商品を身近な場所で常時販売する場を増やす	一般の人、ふじのくに福産品を知らないと思う。福産品周知は県民理解の向上につながる。
福祉的就労で働く人の工賃向上支援	県	福祉事業所への補助金の創設	障害者の生活基盤の安定
出来ることをしてあげる合理的配慮			
—	県	グレーゾーンの障害の方にも支援してほしい	
—	県	経済的な根拠のある支援をお願いしたい	A型、B型の利用者に対しての個人個人の支援
—	私	見た目の分からない障害の方も、自分の出来ることをサポートさせてもらいたい	合理的配慮に基づいて
参加された沼津の方が言っていた、「町内で障害者が何人いるか」などを災害時、支援できるように町内で把握しておけると良いのではという意見です。	県	学区単位くらいで、住所、年齢、人数などをデータ化しておいて、災害時などに町内会などの代表が確認できるようにしたらどうか。	県というより、市町レベルかと思いますが、フォーマットを作って運営指導するなどはどうでしょうか。
支援と理解	個人	人間力を高める。 障害者を知る。	障害者（その家族）と地域でつながる
障害者が集まれる場所があると良い（皆集まれば何か良いことが起こりそう）	県	場所、設備を設置、運営	地域の障害者の声を聞く
障害者と健常者の交流促進	県民	場に赴く	関心がない人でも自然と関われる場である事
障害者に対する正しい見方と理解が合理的配慮	県	市町からの情報をキャッチする。当事者の家族から悩みなどを聞く	市町は他との情報を聞くことで職員も気付くことがある。
障害者への支援、実際に障害者の方を見かけても、何をしたら助けられるのか分からない。知識がないから。出来る範囲で、と言っても。。。	県又は市町	障害に関する説明（身体的、知的両方）と、何に困っているか、どんな手助けができるかを楽しく学べるカルタみたいなゲーム作成	
身体的、知的、発達障害の方に、本人と家族が生活しやすい社会。実際に制度や建物などを作る際、当事者の意見ははいっているのかしら？という疑問です。	県	この施策レビューの場みたいな当事者（家族でも）を呼んで話を聞けるような場を作る、とか。 地域で集まる機会の創出。	もう取組まれていたらすみません。それらしい話は出なかったの。

5班 障害のある人が分け隔てられない共生社会の実現

課題	だれが	なにをする	備考
身体的、知的、発達障害の方に、本人と家族が生活しやすい社会。実際に制度や建物などを作る際、当事者の意見ははいっているのかしら？という疑問です。	県	以前見た、図書館のバリアフリーに関する講座で、「床はフラットで車椅子対応になっているが、パンフレット棚の上が見えない、とれない」など、実際の車椅子の方がひととおり館内を回ってダメ出しをしていました。完璧に見えても、本人じゃなければ分からない不便さはあるので、当事者アドバイザー制度みたいなものがあったらいいなと思いました（もうあったらすみません。）	15：35質問させてもらったので、すでにあることが分かりました。ありがとうございました。
発達障害者の就労環境の多様化	家族	抱えている困難を吐き出す、助けを求める	合理的配慮につなげる。自分に出来ることをする。
発達障害者への理解	個人	知ろうとすること、自分事として考えること	
発達障害者への理解	市	障害者（家族）と地域住民が繋がりを持てるようにサポート	個人情報が含まれるので、市を経由することでお互いの情報を把握する。
発達障害者への理解	市町	地域の信頼関係をつくる	個人情報をどこまで開示するかに注意
発達障害者への理解	地域住民	障害者、障害者家族と地域住民との共同作業。ex地域見守りパトロールとか	理解するには、その人と直接ふれあうこと
発達障害に対する正しい理解と知識	市町	回覧で、色々なことを知らせていると思うが、あまり気にしないと言うよりも生活、仕事に精一杯	地域の問題は市町が取組むべき。県は市町への働きかけをする。
発達障害に対する正しい理解と知識	私	地域に下ろして、まわりのことを障害者の方と家族にとっても生活しやすい	
無理に合理的配慮はいらない	自分	やってほしい事、やってほしくない事は障害者が決める。ヘルプマークの活用	
障害者のことを周りが理解する	地域	障害者の情報を把握する	災害が起きた際などに助けることができるから。
声かけサポーターなどの認知度が低いこと	県	学校などへその存在を知らせる	知らない人が多いので、認知度を上げる必要がある。
声かけサポーターなどの認知度が低いこと	市町	市や町で、声かけサポーターの存在を呼びかける。	知れば興味を持ってくれる人は多いと思うから。
差別のない社会づくり			
—	県民	発達障害に方に対しての深い理解、柔軟な理解	違った行動をしても理解してあげる
意識改革	親、大人	自分の偏見に気付き、子、孫に継承しないように心がける	考え方、マインドセットは日々の生活から形成されるから
意識改革	県	義務教育での啓蒙活動推進	子供の頃からの正しいインプットが重要、一度芽生えた偏見は消えづらい
意識改革	自分	自分の偏見に気付き、修正するよう常に努力する	意識しないと気付かないうちに差別してしまうから
確実に正しい知識を知らない	県	知識を知る機会を設ける。	
確実に正しい知識を知らない	障害をもたれている方	時と場合の対応をカードなどに示す。	

5班 障害のある人が分け隔てられない共生社会の実現

課題	だれが	なにをする	備考
確実に正しい知識を知らない	私	正しい知識を知る。調べる。他人に伝える。	幼少期から教育を受けていれば、差別感情は少なくなると思う。
支援と理解	国	人は皆同じで、互いに受容できる教育を目指してほしい	
障害者と健常者の交流促進	県	拓かれた場の提供（障害に関わらず理解をしあえる場）。教育、就労より軽い、身近な場で受容できる環境づくり	障害者の区別をしない。“みんな変わらない”という認識の共有
障害者と健常者をあまり区別しない	自分	とっさの場面で驚かない	
若い世代の障害者教育	私	ボランティアへの参加	積極的に障害者の方々と関わる行事に参加することで、障害者の方の視点を少しでも共感できるようになりたいから。
若い世代の障害者教育	地域	スポーツイベントなど	いろいろな人が関わるイベントをすることで、障害者の方々と触れ合う機会ができ、理解が深まるから。
障がい者への差別や偏見が激しいこと	学校や親	小さいうちから正しい知識を知らせる	地域のイベント等で障害者とふれあう機会の創出をする。
障がい者への差別や偏見が激しいこと	県	知る機会を設ける	学校以外では、どこで学べば良いのか。
障害に対する理解の推進	県民	障害者への理解、共生	障害者との共生がごく普通にできる社会の実現
障害者のことを周りが理解する	私	障害について知識を身につける	障害を持った人に対して自分で考えて行動する必要があるから。
発達障害について、私たちがあまり詳しく知らないこと	学校として	道徳の講義などで理解を深める。	若いうちから知っておくことが重要だと感じたから。
発達障害について、私たちがあまり詳しく知らないこと	県	発達障害の存在を県民に知ってもらえる機会を設ける	発達障害について知らない人が多いと感じたから。
発達障害について、私たちがあまり詳しく知らないこと	私	発達障害について理解を深める。	調べる、知る
県の取組のPR			
県の取組、イベントの周知	県	SNSを利用する	若者はSNSを頻繁に使用しているため
制度的バリアーの撤去と構造変更	各個人	SNS (Facebook) コミュニティを立ち上げ、一般論議板をつくる	障害者への政策を周知する。
施策の広域への周知	県	ターゲットそれぞれへのアプローチ。間口の広い活動にする。参加せずとも関心を持ってもらう。	SNS、ポスター、直接声かけ

5班 障害のある人が分け隔てられない共生社会の実現

課題	だれが	なにをする	備考
認知度向上	県	SNSの活用	SNSでの広報をしてないと言っていたので、やってみる価値はあると思うし、今日の状況に見ると最も有効であると思う。
認知度向上	学校	学校単位でなくクラス単位で講義をきく。	自分が体育館で講義を受けたことがあるが、腰が痛くなったり、密集したりで集中し続けられない。
発達障害者への理解	県	学校教育、中学校（小学校）から	道徳授業、障害者施設への体験学習、県職員も体験学習を。
発達障害者への理解	県	SNSを使った周知	差別解消にはどうすれば良いか。取組例が知りたい。
発達障害に対する正しい理解と知識	県	今回の参加によって自分のこと化して、分かった事を多くの方に知ってもらう	波及効果。
優良事例表彰			
合理的配慮の適用→どうしたら障害の理解を促進できるか	県	障害差別解消に係る優良事例をSNSで発信する	優良事例を知り、県民が知る機会を確保する
合理的配慮の適用→どうしたら障害の理解を促進できるか	市町	障害差別解消に係る市町の取り組みをSNSで発信する	居住地域の取り組みを知る事で身近に感じる事が出来るから
合理的配慮の適用→どうしたら障害の理解を促進できるか	私	今回参加して知り得た内容を周囲の人に伝える	身近な人が話すことで身近に感じる事が出来るから
障害に対する理解の推進	県	広報の充実	全世代に浸透するようSNSの積極的活用
障害に対する理解の推進	市町	広報の充実	市町主催各種イベントの活用
障害者の仕事の質の向上	企業	SNSでの配信	障害者の方々の活躍を知ってもらうことで共存しているんだと言う意識を持つことができるから。
障害者の仕事の質の向上	県	福祉的評価を行う	生きがいを障害者の人が感じながら働くことが大切だと考えるからです。
声かけサポーターなどの認知度が低いこと	県	SNSなどで広める	若者に知ってもらうには、SNSが一番良いと考えるから。
その他			
制度的バリアーの撤去と構造変更	県	障害者総合支援法、政令、省令の精査	
合理的配慮の理解が進めるために何が出来るか→声かけサポーターの周知促進するためには	市町	キャラバンメイトのように企業などに対して実施していく	健康推進委員との連携もよいか